

萩の友

第17号
平成28年(2016)9月発行

萩市文化協会
会長/有富 美子
編集
会報編集委員会
委員長/大場 洋

題字/萩市文化協会 斉藤 武男



映画
「八重子のハミング」
萩ロケ風景

今年の三月、萩市内各所で映画のロケが敢行されました。八月五日には試写会も行われ、いよいよ公開となります。萩の風景が、物語りと共にスクリーンの随所に映し出されます。



上段：主演の升毅さんと高橋洋子さん
(笠山椿群生林にて)

中段：市内ショッピングセンターにて

下段：金谷神社にて(夜間/雨シーン)

オリンピックの中の文化

会長 有富 美子

地球の反対側ではリオデジャネイロ二〇一六オリンピックが、多くの不安を抱えながらも盛大に開催され、日本選手の活躍は目を見張るものがあつた。四年後の東京二〇二〇オリンピック・パラリンピックも大いに期待される。

その東京オリンピックのエンブレムは、紆余曲折してやっと決まった。藍色の組市松紋は日本の「粋」を垣間見る気がする。リオオリンピックのエンブレムも同様に紆余曲折したが、原色三種のそのデザインからブラジルの文化と情熱を感じることができた。それぞれの国の文化は、エンブレムやユニホームに表れ、スポーツの祭典を盛り上げる大切な役割を見事に果たしているといえよう。ジャマイカのウサイン・ボルト選手が疾走していく姿は圧巻で、今も黄色のユニホームが目に残っている。閉会式では、光のフレイムが巨大な市松模様のエンブレムを形作る演出など、四年後の東京に思いを馳せた見事なパフォーマンスが展開された。

オリンピック憲章における文化の位置づけを調べてみると「スポーツを文化と教育と融合させることで、オリンピックが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である」と明記されている。

意外にもオリンピックと文化は深い関わりをもっていた。

平成28年度 加盟団体主要行事一覧表 (平成28年10月～平成29年3月)

月	日	時間	行事名	場所	団体名
10	1	9:00~15:30	第64回山口県川柳大会	サンライフ萩	山口県川柳協会、萩川柳会
	2	13:30~16:00	第33回萩・阿武女声コーラスの集い	市民館大ホール	萩・阿武女声コーラスの集い実行委員会
	22	9:30~15:30	第32回萩・阿武・長門合同短歌大会	萩総合福祉センター	萩・阿武・長門合同短歌会
	30	13:00~14:30	茶の湯文化にふれる市民講座	市民館大ホール	表千家萩千萩会
11	3	12:30~16:30	第25回萩市民音楽祭	市民館大ホール	萩音楽協会
	3~28	9:30~15:00	多磨 WOOD PRINT 木版画展	カフェ「藍場川の家」	多磨 WOOD PRINT
	6	9:30~15:00	第43回萩市合同吟剣詩舞大会	市民館大ホール	萩市吟剣詩舞連盟
	16~18	10:00~17:00	第17回臨江書道会 書・水墨画展	萩郵便局コミュニティルーム	臨江書道会
	19	17:00~22:00	山田天神様秋季例祭神楽舞奉納	山田天神様	山田神楽舞保存会
	20	10:00~	晩秋茶会	松陰神社	表千家萩千萩会
12	2~4	9:00~17:00	合同作品発表会	市民館小ホール	中央公民館
	2~25	10:00~16:00	作品展	なないろ	ステンドグラス教室ゆとりろ
	4	10:00~16:30	北浦選抜歌謡コンクール	ルネッサながと	NPO法人北浦音楽芸能文化協会

※各団体から報告のあったもののみを掲載。

原稿募集!

会報「萩の友」は、会員の交流の場です。皆さんからの情報を募集しております。どんどんお寄せください。

編集後記

▽世界の若さと健康美が躍動したリオのオリンピック▽テレビに吸い寄せられ寝不足はるかに超えた努力によって、もたらされたものだが、その努力のみならず、支えてきた人々までも丁寧に紹介する画面に、ただただ感動▽その感動を伝えることも文化活動▽それは即、歴史の記録のページでもある▽秋、文化行事が多く開かれる。また、運動会も▽正に文化とスポーツの季節。健康こそ、その基盤である。(委員長 大場 洋)

萩市文化協会10周年記念

「ザ・チェンバーブラス～N響金管奏者たち～」 チケット発売中!! お求めはお早目に。

このコンサートは、三井住友海上文化財団のご支援をいただき、萩市文化協会10周年の冠を付け実施することとなりました。会員の皆様にチケットの斡旋を行いますので、ご案内いたします。
チケットは破格の1,000円(税込)となっています。

日時：10月23日(日) 開演15:00(会場14:30)
場所：萩市民館 大ホール
入場料：全席自由 1,000円(税込)

萩市民大学教養講座

■第3回

「幕末の志士の書から～佐久間象山の手紙の真贋について～」

日時：10月14日(金) 18:30～

場所：萩市民館 大ホール

講師：増田 孝(書籍史家・愛知東邦大学教授、「開運!なんでも鑑定団」鑑定士)

■第4回

「小さな旅」から見えるもの～地域の魅力を再発見～

日時：11月15日(火) 18:30～

場所：萩市民館 大ホール

講師：山本哲也(NHKアナウンサー)

●受講料：無料(入場整理券が必要です)

●配布所：市民館、各地域の公民館、総合事務所

平成二十八年年度

萩市文化協会通常総会開く

平成二十八年年度萩市文化協会通常総会は、六月五日（日）午後三時から萩グランドホテル天空で開催されました。

約七十人の参加があり、冒頭、有富会長から「昨年、協会会長を引き継ぎ、この一年間皆さんの活動を勉強させていただきました。皆さんの個々の活動に敬意を表します。それぞれの活動を知り、認め合うことが大切だと感じています。また、このほど山口県において『観光スポーツ文化部』という組織が新設されたように、これからは『文化交流』が一層重要になっていくと思われます。萩市においても文化交流を通じて文化の向上を図っていただければと思います。」と挨拶がありました。



▲挨拶される有富会長



▲藤間流小伊絃社中

議案全会一致で承認

続いて、有富会長を議長に、規約改正、役員改選が審議され、役員は全員留任で承認されました。

また、平成二十七年年度の事業報告及び決算報告、平成二十八年年度事業計画案及び予算案などについて審議され、全ての議案が全会一致で承認されました。

次いで行われたアトラクションでは、藤間流小伊絃社中の皆さんによる日本舞踊の披露が行われ、しなやかで美しい日舞と子ども達による愛らしい踊りが、会場の皆さんに、笑顔と感動を届けてくれました。

総会記念講演

「萩焼四〇〇年の伝統

―地域の文化資源と創作活動―

講師 石崎 泰之氏

山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監業学芸課長の石崎泰之氏による、「萩焼四〇〇年の伝統―地域の文化資源と創作活動―」と題して記念講演がありました。

講演では、石崎氏が萩焼の「伝統」について、「時代とともに変わっていく見方、感覚の中で、ずっと同じものを同じ感覚で作っていくのは困難である。伝統というのは、萩焼はこうあって欲しいという姿である。」として、萩焼の歴史的背景と、萩焼とは切っても切れないお茶との関係について、桃山時代から千利休、古田織部等武家社会における茶の湯、焼物の関係を分かりやすく説明されました。

また、萩焼の土や釉薬等の特徴的



▲熱弁される石崎先生

な部分を挙げ、詳しく話され、魅力を再認識することができました。

さらに、「文化資源としての萩焼は、在来産業の近代化できない部分として取り残されたが、お茶の文化も隆盛となり、工業化できないところを逆手に取ったところから、国民文化の伝統としてまとまりを見出し、その中で、伝統が個性を抑圧してしまうとして悩んだのが、三輪壽雪であり、新たな伝統を作った。」と話されました。

最後に、「若い作家の方に新しい気風を追求してもらいたい。創造的伝統のために、作り手の造形視力、造形力など持っている才能を成長させ、また、喚起力、表現力、受容力など、誰かを奮い立たせ、びっくりさせるような力を持ってもらいたい。そのため、我々も美術館もお役に立ちたいと思っています。」と、萩大賞展を三年に一回開催し、茶党以外のスタンダード、そういうものを求める人達がでてこないかと期待しています。

また、多様な文化・美術の分野の中で、焼き物だけでなく音楽や料理等と組み合わせ、総合的なエンタテインメントとして情報を提供している文化資源が創造的に動いたらと考えています。」と、これからの展望を話されました。

小諸・藤村文学賞（高校生部） 最優秀賞受賞

萩光塩学院三年 野村 和未さん



文豪・島崎藤村ゆかりの長野県小諸市で開催された「第二十二回小諸・藤村文学賞」の高校生の部で、光塩学院三年の野村和未さんが、最優秀賞を受賞されました。

この賞は、エッセー（随筆）が対象で、今回は全国から、一般の部に九百十七編、高校生の部に千三百五十編、中学生の部に四百九十編の合計二千七百五十七編の応募がありました。

作品のテーマは「父」で、日常生活の一部を描写したユニークな作品。作品は小諸市のホームページで公開されています。

（最優秀賞作品）「父」（抜粋）

鼻が大きい。顔が脂ぎっている。鼻毛に白髪が混じっている。髪が少なく薄毛っぽく見える。短いと思われる足。――略――言い間違いが多いのに自分はちゃんと言ったとひらき直る。基本短気。自分の思い通り

に事が運ばないと、不機嫌になる。

これが私の父親だ。そして私の小鼻も大きく、父親にそっくりと言われる。非常に迷惑な話である。そう考えると、いわゆる「素敵」と名のつくところがない。母は、父のどこがよくて結婚したのか、不思議でならない。

――略――

何か弱みでも握られていたのだろうかとさえ思ってしまった。実際に両親は、私が六才の時に離婚している。私と弟と母は、三人で小さなアパートで暮らし始めた。時々父がやってきて、父子三人で遊んだ。

――略――いつ頃からか、夕食と一緒に食べ、風呂にも入り、私と弟を寝かしつけてから、自分の自宅に帰るという生活になっており、その頃から、母も含めた四人家族で出かけるようになった。端から見れば、どこにでもいるごくごく普通の家族だっただと思う。しかし父と母はまぎれもない他人。そんな生活が数年続き、私が九才になる年に復縁した。私と弟の前で料理をしている母に向って、「結婚してください」と言っていた。

――略――

結果として、父のプロポーズ？は成功したのである。それから父は、母を大切にされた。母もまた、父を大切にされた。それから今に至るまで、

たまに喧嘩はするが、バカ夫婦の称号をさしあげたいほどのアツアツ夫婦になっていった。兄弟が一人、また一人と増えていき四人兄弟となり、「多すぎる」これが私の本音であるが、両親はどく吹く風で「貧乏子沢山を地で行くね」と呑気に言っているところにまた腹が立つ。

いわゆる、リア充というやつを家で見せつけられてるこっちの身になれ。

――略――

最近の私は、父と良く話す。二人で話すことも多い。そんな時に思うのは、本当に母を愛しているんだということだ。と、家族思いなんだなということだ。

そして結論に達した。どう考えても不細工だが、父はやさしく強い人だということ。もう少し遠慮してほしいと思うくらいに、仲の良い両親。貧乏子沢山を地で行くが、別に格別困った事もない。しいて言えば、買物に行くと、母がお菓子は九十九円までと高いお菓子を買わないドケチということぐらいであろうか。

そう思うとしつこいが、私の父は不細工だ。しかし私の日常は、飽きのこない幸せなものなんだろうと思える。父親ゆずりの小鼻の大きな鼻も、愛しく思えるかもしれない。

――略――

愛すべき、どこか可愛らしい父へ。娘より。

映画「八重子のハミング」 協賛金の報告

陽信孝氏原作の映画「八重子のハミング」は、皆さんのご協力により、このほど製作を終え、八月五日に試写会が行われました。

当協会として、協賛金をお願いしましたところ、二十七名の個人、二十団体より、二十四万四千二百円の協賛金が集まり、映画製作支援萩実行委員会に送付しました。会員の皆様に心から感謝いたします。

全国特別鑑賞券（前売券） 発売中！

現在、前売券（全国特別鑑賞券）の幹旋を行っています。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

価格は一〇〇〇円（税込）です。十月二十八日販売終了となりますので、お早めにお求めください。



▲10月29日から先行ロードショー